

図書館だより

National Defense Academy Library Bulletin

2014. 9. 22

主な内容

頁

「一段上の正義」「一段上のリーダー」を目指して	副校長（教育担当） 渡邊 啓二 (485)
教官著書の紹介	国際関係学科 佐々木 智弘 (488)
教官推薦図書の紹介	公共政策学科 彦谷 貴子 (490)
図書館サービスを活用していますか？Pt. III	(493)

「一段上の正義」「一段上のリーダー」を目指して

副校長(教育担当) 渡邊 啓二

図書館を入ると直ぐに、リーダーシップ関連図書コーナーがあり、防大生に読んでもらいたいリーダーシップやリーダーに関するたくさんの本が開架されている。日本人はどのようなリーダーを好むか。特に、東日本大震災後から、書籍ばかりでなく新聞等でも指導者に関わる記事を目にする。あるビジネス雑誌で、尊敬する経営者や歴史上の人物などについて読者アンケートを行った結果、歴史上の人物のベスト3は坂本龍馬、織田信長、徳川家康であり、戦国武将の『土壇場、修羅場、正念場』の経験と自分を重ねて見るのが理由とのことである。学生時代に、『坂の上の雲』や『国取り物語』を読み、歴史上の人物や戦国武将が自分の“師”となっ

ていったことが思い出される。

『図書館だより』への寄稿を依頼され、読破するには忍耐が必要かもしれないが、ブッシュ政権の国防長官の回顧録で دونالد・ラムズフェルド著『真珠湾からバグダッドへ』を紹介することにした。



原題は「知られているもの、知られていないもの」という意味の『Known and Unknown』である。昨年の暮れ、年末年始の休暇中に読みたいと思い購入したが、読み終わったのは旧正月であった。ラムズフェルドはブッシュ政権においてイラク戦争やアフガニスタン侵攻において米国国防長官として様々な困難な局面において米軍を指揮した人物であり、テレビなどの映像からは強面な印象を受けていたので一体どんな人物なのか興味があったのが、読むきっかけであった。人物評価には賛否もあり、防大生に読んでもらうのに相応しいか少し躊躇したが、800頁を超える内容であり、アメリカという超大国の威信が見えてくるようで引き込まれるものがあった。また、本書を読んでアメリカ合衆国の政治について、“知らないことが多いことが分かった”のも推薦の理由の一つである。本書(回顧録)の巻末には執筆の経緯などが記載されており、貴重な資料に基づく4年の歳月を要したこと、また、翻訳者の解説で邦題と原題が異なっていることについては、日本の読者への配慮であることが述べられている。

本書の英語版タイトルは『Known and Unknown』であり、読みはじめると直ぐにこの本のタイトルに「the known (知られているもの)」と「the unknowns (知られていないもの)」を用いた理由が分かる。2012年2月の記者会見におけるラムズフェルドの言葉が原題に繋がっている。以下はその抜粋である。

物事が起きていないとする報告に、私はいつも強い関心を覚えます。なぜなら周知のとおり、世の中には「知っている (known) と知っていること (knowns)」があるからです。これは、自分がそれを知っていると自覚している物事のことです。あるいは「知らない (unknown) と知っていること (knowns)」があることも私たちは知っています。すなわち、自分が知らない(と自覚している)物事が世の中にはあることを私たちは気づいています。そして、また「知らない (unknown) と知っていないこと

(unknowns)」もあります。これについて言えば、私たちは自分がそれを知らないことを自覚していません。そして、我が国をはじめ他の自由諸国の歴史を振り返るならば、最も難しいことが多いのが、この最後の種類なのです。

ラムズフェルドの生い立ち、青年期、大学時代、政界進出の経緯などが書かれており興味深い。彼は高校時代にはレスリングに打ち込み、オリンピック出場を目指し、大学卒業後に海軍に進みパイロットとなり、30歳で下院議員になる経緯が書かれている。別の資料で分かったことであるが、プリンストン大学では、レスリングとアメリカンフットボールの両チームのキャプテンを務め、海軍ではレスリングのチャンピオンにもなっている。フォード政権では史上最年少として国防長官を務め、実業家として多くの企業経営に参画し、実業界でも優れた手腕を発揮している。2000年、68歳でジョージ・W・ブッシュ政権では史上最年長国防長官として9・11後のアフガン、イラク戦争で困難な任務を遂行するリーダーとして苦難な道を歩む様子が伝わってくる。

本書の中では経験に基づいた心得、いわゆる『ラムズフェルドのルール』も格言として引用されており、印象に残ったものをいくつか紹介したい。

「人生に必要なのは、知性のペシミズム (pessimism) と意志のオプティミズム (optimism) である」

「信頼は馬に乗って逃げるが、戻ってくる時は徒歩だ」

「計画自体に価値はない。計画を立てることこそがすべてである」

「批判されないのは、たいしたことをしていない証拠だ」

「戦争とは外交の失敗である」

「ある問題の解決策が見当たらず行き詰まったときは、その問題を拡大させなさい」

最近、政治に学ぶ、リーダーのあるべき姿や

リーダーに望まれる資質について様々論じられている。しかしながら、東日本大震災を経て、日本人はより強いリーダーを求めるようになった。また、リーダーとしての能力は想定外のことが起きた時に見えてくると云われ、新聞や雑誌のコラムにはリーダー育成についても論じられようになった。安全保障のスペシャリスト(志方俊之氏)によれば、「危機管理では“考えられないことを考える”ことが重要であり、想定し、準備と訓練を怠らないことである」と述べている。半世紀にわたり権力の中枢に身を置き、対テロ戦争を引っ張った不撓不屈の精神力を持ったラムズフェルドはまさにこれを実践した人物であると云えるのではないかと思う。

さて、表題が“「一段上の正義」「一段上のリーダー」となっているが、これらは『ウエスト・ポイント流 最強の指導力』(防大生に読ませたい私の推薦図書)の本文中からの引用である。



著者、L・R・ドニーソンはアメリカ陸軍士官学校卒業生である。ウエスト・ポイントはアイゼンハワー大統領や各界の偉大な指導者を数多く輩出しているばかりでなく、最初に月面着陸に成功した三人の宇宙飛行士のうちの二人は卒業生である。同校出身であり優れた指導教官でもあった著者が、ウエスト・ポイント流リーダーシップ教育について紹介している。特に、名将ダグラス・マッカーサーの“最強のリーダーシップ17則”などは防大生が初級幹部自衛官に

なった場合に必要なものを感じ取れるものである。以下は本文からの引用である。

「士官候補生は、職業的には言うまでもなく、いつかなるときでも、道徳的に行動することを期待されている。ほとんどの人々がリーダーは常に——ご都合主義に傾いたり、独断に陥ったり、一般受けを狙ったりすることとは対照的に——正しいことを行うべきであるという点で一致している。ウエスト・ポイントでは生徒に常にそうするように求めている。そして、さらに一歩進んで、いわゆる「一段上の正義」に達するように望んでいるのである。」「優れたリーダーには不可欠な四つの「基本心得」

他人が考える以上に気を配れば、賢明である
他人が考える以上に危険を冒せば、安全である
他人が考える以上に夢を抱けば、現実になる
他人が考える以上に期待をすれば、可能になる」

防衛大学校のリーダーシップ教育科目は、防衛学では統率、教養教育では実験心理学、カウンセリング、組織とリーダーシップ、組織経営論など、さらに訓練部では共通補導科目が展開されている。そして、これの科目の学際的連携と体系化について、防衛大学校の「新たな高み」の一つとして『教養教育センター(仮称)』において、これから検討が進められることになる。

勉学、校友会、学生舎生活を通じて、「一段上の正義」「一段上のリーダー」を目指して欲しい。

※図書館所蔵図書の請求記号と配架場所

・真珠湾からバクダッドへ

近日配架予定

・ウエスト・ポイント流 最強の指導力

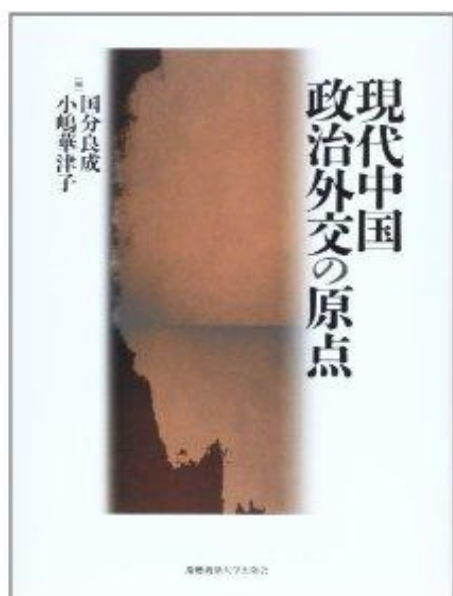
159.8-Y66(「防大生に読んでほしい1冊」コーナー4役4部長等紹介図書)

~~~~~教官著書の紹介~~~~~

国分良成・小嶋華津子編『現代中国政治外交の原点』

(慶應義塾大学出版会、2013年)

国際関係学科 准教授 佐々木 智弘



米国に次ぐ世界第2位の「グローバルな経済大国」、平和発展を掲げながらも東シナ海や南シナ海に海軍の艦船を派遣し海洋権益を拡大する「パワー信仰に興じるリアリスト国家」、中華民族の偉大な復興を意味する「中国の夢」というスローガンを掲げる「ナショナリズムの動員」、体制批判の言動や活動を許さない「共産党の君臨する権威主義国家」、出稼ぎ労働者や少数民族の暴動が絶えない「集団騒擾事件に苦悩する脆弱国家」。編者が言うように「中国ほど多様なイメージで語られる国はない」。そして「とりわけ歴史問題や領土をめぐる衝突をかかえる日本の中国論は、ともすれば自己肯定のためのイメージ論に陥りがちである」。

それでは、現在の中国が抱える政治、外交の

課題の本質をどのように捉えたらいいのでしょうか。それに答えるべく、巷にも多くの中国関連書籍が並ぶ中で、本書はイメージ論とは一線を画する立場から、中国が直面する諸課題をその歴史の原点に立ち戻って考察し、今日の中国の政治行動を規定する内的ロジックを浮き彫りにすることを目指しました。

本書は序論、そして17編の論文から成る「大所帯」の学術論文集です。しかし、冒頭に紹介した日本の中国論に対する認識、そして本書のねらいを執筆者18人が共有し、それぞれの論文はまず現在の中国が直面する課題を提示し、次にその課題発生、課題への対応の歴史的原点を分析するという統一されたフォーマットでほぼ構成されています。

第1部「中国政治の原点」は3部に分かれています。「I 中国共産党の権力掌握」では、共産党の権力の源泉となっている党、軍、公安組織、メディア、国有企業を取り上げました。第1章の鈴木隆は共産党の一党支配が時代環境への適応、共産党の柔軟性によって維持されていると捉え、その原点は1949年の中華人民共和国建国前の毛沢東主導の農民革命の戦略にあり、その後1992年の「社会主義市場経済」論、2002年の「三つの代表」論の提起と変容しつつも歴史の連続性を示しているとしています。第2章の山口信治は軍の近代化に伴い軍における党の指導が弱まってしまいうジレンマを取り上げ、その原点が1950年代のソ連軍モデル導入をめぐ

る近代化と党の指導の対立にあるとしています。第3章の岩谷将は現代の国家公安組織が党の組織や指導者を守る組織になっていることは、1920年代、1930年代に党内組織を母体として成立したことにその原点があるとしています。第4章の林秀光は各種メディアが中央宣伝部の統制下にあることを取り上げ、その原点が建国前後に国民党政権下の既存メディアを接収したことにあるとしています。第5章の佐々木智弘は国有企业が現在の中国经济成長を依然としてけん引しており、既得権益化している現状について、その原点を1990年代の国有企业改革にあるとし、積極派の朱鎔基副総理と江沢民総書記らの慎重派の対立で改革が頓挫したことを明らかにしました。

「II 重層的な支配構造と権力」では、広大な国土をどのように統治するかという課題を取り上げました。第6章の磯部靖は中央による地方統治の課題を地方保護主義よりもむしろ垂直的指導と水平的指導の二重指導体制にあるとし、その原点を地方分権化から中央集権化に方針転換した高崗・饒漱石事件による1954年の六大行政区の廃止に求めました。第7章の角崎信也は農村など末端で多発する「群衆性事件」(集団抗騒擾事件)を取り上げ、党は事件を末端支配の修正の機会ととらえ、事件と党は緊張関係よりもむしろ「共在」関係にあるとし、その原点を1960～1962年の「大飢饉」への党の対応に求めました。

「III 党の社会統制と覚醒する市民」では、党の統制に抵抗する動きと党の対応を取り上げました。第8章の呉茂松は民衆の権利擁護運動(中国語で「維権運動」)の盛り上がりを取り上げ、当初の私的権利の保護から公的領域に関わる組織的な運動、制度変革や政治改革を求める運動へと変化していることを明らかにしました。第9章の小嶋華津子は公権力に挑む弁護士たちを取り上げ、弁護士に国家から自立した地位を与えた1996年制定の「弁護士法」の意義を論じました。第10章の星野昌裕は頻発する「自治」をめぐる民族紛争を取り上げ、昨今顕著に

なってきた少数民族と漢族の対立の原因として建国以降の民族政策の柱となってきた民族区域自治制度が現実に対応していない点を指摘しました。

第2部「中国外交の原点」も3部に分かれています。「IV 国家統合と外交」では、外交をナショナリズムの観点から取り上げました。第11章の江藤名保子は、自国利益を優先する「プラグマティックなナショナリズム」が経済・外交政策に表面化している現状を指摘し、その原点を1970年代末に導入され、1980年代に展開された「改革・開放」にあるとしました。第12章の兪敏浩は中国の対台湾政策の変化を国民党と共産党、台湾独立志向の政治勢力(「台」)の三角矛盾構造の相互作用と捉え、その原点として1980年代の蔣経国時代の矛盾構造の形成過程を分析しました。

「V プロパガンダと現実主義外交」では、外交をリアリズムの観点から取り上げました。第13章の阿南友亮は中国が米国を仮想敵国と位置づけている現状を指摘し、それはその原点となる1950年代以降の冷戦構造の継続であり、米国が台湾問題に関与するかぎり今後も米中の軍事的対峙が固定化するとしています。第14章の杉浦康之は2012年9月の反日デモに見られるような民衆の反日デモを対日圧力に利用する外交手法と位置づけ、その原点を1960年の安保闘争を支援した対応にあるとしました。第15章の飛鳥田麻生は2002年発足の胡錦濤政権以降に見られる対日強硬姿勢と日中関係悪化が、1990年代半ばの冷戦終結による対米牽制としての日本の重要性が低下し、また民衆のナショナリズムが高揚したことに原点があると指摘しました。

「VI グローバル化への対応」では、外交をグローバリズムの観点から取り上げました。第16章の李彦銘は慎重論があるものの中国は一貫して外資利用を積極的に進め、経済発展していると、その原点を1970年代末の大型プラント輸入と日中経済協力の対応にあるとしました。第17章の青山瑠妙は中国が近年国連の平

和維持活動への参加や調停外交といった国際協
調外交を展開していることを指摘し、その原点
を 2003～2005 年のダルフール問題への対応の
変化にあるとしています。

本書は啓蒙書ではなく、学術論文集であるた
め、専門的な内容も少なくありません。しかし、
現在の中国の政治、外交の諸課題についてほぼ
網羅されていること、また歴史との対話の中で
現状を理解することができるよう工夫しました。
是非多くの方々に読んでいただき、中国の政治、
外交を客観的に見るための手がかりにしてい
ただければと思います。

最後に、本書は国分良成学校長の遺曆を記念
して出版されたものであり、特に序章は国分学
校長自らが中国研究に対する思いを綴っている
ことを書き記しておきます。

※図書館所蔵図書の請求記号と配架場所

312.22-G33 (教官著書寄贈コーナー)

~~~~~教官推薦図書の紹介~~~~~

『アンのゆりかご：村岡花子の生涯』 . . . . . 村岡恵理著 新潮文庫

『村岡花子と赤毛のアンの世界』 . . . . . 村岡恵理責任編集 河出書房新社

『花子とアンへの道：本が好き、仕事が好き、ひとが好き』 村岡恵理編 新潮社

『村岡花子の世界：赤毛のアンとともに生きて』 . . . 村岡恵理監修 河出書房新社

公共政策学科 准教授 彦谷 貴子



花子とアンへの道

本が好き、仕事が好き、ひとが好き



日本人ほど『赤毛のアン』を愛する国民はいないと言われている。世界での総発行部数約 5000 万部に対して、日本での発行部数は 1500 万部を超え（『日経トレンディ』2014 年 7 月 9 日）、小説の舞台となったカナダ・プリンスエドワード島には、年間 6000 人以上の日本人観光客が訪問するという。しかし、『赤毛のアン』を最初に翻訳し、日本に紹介した村岡花子について知る人は、今年 4 月に NHK 朝の連続テレビ小説「花子とアン」が始まるまでは少なかったのではないか。

この NHK の番組の原案となったのが、村岡花子氏の孫である村岡恵理氏による評伝、『アンのゆりかご』である。この本の装丁はとても可愛らしく、防大生に推薦する本としては意外に思われるかもしれない。しかし、翻訳家として、そして様々な社会活動を通じて、明治、大正、昭和と、激動の時代に大きな業績を残した村岡花子の生涯、そして彼女から発せられたメッセージは、可愛らしさというよりも、強い使命感と逞しさを感じさせるものである。

#### [本を通して世界を知る]

『赤毛のアン』、『クリスマスキャロル』、『王子と乞食』など、400 冊を超える欧米の著作の翻訳者という点、外国との接点の多い家庭に育った華やかな人物像をイメージするのではないか。しかしそのようなイメージに反して、花子は山梨の商人の家に生まれ、生涯和服姿であった小柄な婦人であり、海外へは、晩年に一度渡航したのみであった。それではどのようにして、語学力と欧米の文化への理解を身につけ、数多くの翻訳書を発表することができたのだろうか。

最大の要因と考えられるのが、東洋英和女学校における 10 年間に及ぶ寄宿舎生活である。カナダのメソジスト教会によって創設された同校では、当時カナダで使われていた教科書を授業で使用するなど、高い語学力を身につけるカリキュラム編成となっていた。さ

らに、カナダ人婦人宣教師との寄宿舎生活を通じて欧米の考え方や生活習慣を経験することとなる。そして、花子の人生を方向づけるのは、図書室の英米の古典文学や家庭文学の原書との出会いであった。「物語とは誰かと分かち合うべきものであり、伝えたいという衝動がすでに心の奥深い泉から湧き上がり（68 頁）」、図書室の本を次々と読破し、面白いものは翻訳して寄宿舎の下級生に語り聞かせていたという。

一方、文学の魅力を知り、翻訳を重ねる中で、花子は日本文学の素養の不足を痛感し、学友の柳原燐子の紹介で、国文学者であり高名な歌人でもあった佐佐木信綱に弟子入りをする。そこでは、和歌の素養を身につけるのみならず、『源氏物語』や『万葉集』の講義を通じて日本語の美しさにも目を見開かされ、さらには近代文学、そして同時代の文学者たちとの生涯にわたる交流のきっかけを得ることになった。

卓越した英語力、欧米文化への理解と日本語の素養は、花子による英詩の翻訳や、花子自身の考えからも伺い知ることができる。

In this world of darkness, We must shine.

暗きこの世を 我等は照らさん

You in your small corner, And I in mine.

君も我も 小さき片隅にて

（スーザン・ウォーナーによる讃美歌の部分訳）『アン  
のゆりかご』55 頁）

The Way 道

（ジョン・オクセンハム作、村岡花子訳）（『村岡  
花子の世界』80 頁）

To every man there openeth

すべての人の前に

A Way, and Ways, and a Way,

一筋の道と多くの道と他にまた一筋の道がひらく

And the High Soul climbs the High Way,

高きを仰ぐたましひは 高き道をのぼり

And the Low Soul gropes the Low,

低きにつくたましひは 低き道にうごめく。

And in between, on the misty flats,  
 高きと低きの二筋の道は 霧深い広野に隔てられ  
 To rest drift to and fro.  
 其処にもまた旅人のむれはさまよふ  
 But to every man there openeth  
 ともあれ、すべての人の前に  
 A High Way, and a Low.  
 高き道と低き道とはひらかれ  
 And every man decideth  
 人おのおのが  
 The way his soul shall go.  
 みづからのたましひのゆくてをさだめる。

海外旅行が容易になり、インターネットを通じて即時に海外の情報を得ることができる今日、本、特に文学作品を通じて「世界を知る」ことは時代遅れに感じるかもしれない。しかし世界の文学作品を読むこと、そしてできれば原書を読んでみるのが、単に語学習得だけでなく、他国の歴史や文化を知る上で貴重な経験となることを本書は思い出させてくれる。

#### [逆境の中にも光を照らす]

「いわば楽園のような」(100頁) 東洋英和女学校から卒業した後、花子は編集者、翻訳家として活躍するようになるが、同時期、関東大震災後の夫の会社の倒産、愛児の死去など、多くの試練をも経験することとなる。そのような試練の中、花子は「日本中の子供たちのために上質な家庭小説を翻訳したい(219頁)」という信念をより強くする。そして翻訳の仕事を「天職」としつつ、市川房江らの婦人参政権獲得運動への参加、JOAK(NHKの前身)のラジオ番組「子どもの時間」へのレギュラー出演などを通じて、「女性や子どもにとってよりよい社会」を目指す活動へと活動の場を広げていく。

しかし、第二次大戦が始まると、「参政権獲得運動と宣教師との友情、そして英米文学の翻訳の仕事は花子が戦前から大切にしていた

ものである。平和であれば問題なく共存していったはずなのに、参政権獲得運動が国策と複雑に絡んだことも重なり、花子は矛盾を孕みながら歩まざるを得なかった(278頁)」とあるように、敵国語である英語の翻訳は困難になり、母校の宣教師たちも帰国または収容所への拘留を余儀なくされる。その中で花子は講演活動などを通じて国策に協力しつつも、灯火管制の中、「スタンドに黒い布をかぶせた薄暗い部屋でカナダの人々に友情の証を立てるような思いで『アン・オブ・グリーン・ゲイブルズ(赤毛のアン)』を訳し続けた(287頁)」という。

このように、困難な状況にあっても、自らの「天職」と考える仕事を辞めなかった強さは、最初に紹介した詩にあるように、「暗き世」にあっても、人それぞれが「小さな光」をともし続けなくてはならない、という使命感に由来するものであった。それは、東洋の少女たちの教育のために遠い異国に来た宣教師たちの宗教的使命感に啓発されたものであったことは間違いない。しかし、花子自身の使命感はクリスチャンとしての意識にとどまらず、「自分がそうであったように今を生きる少女たちにも読書を通じて自分を高めてほしい」、という、より個人的な経験に基づいた使命感であったといえるのではないか。それは同時に、読者に対しても「小さな光」をともし続けてほしいというメッセージにもつながっている。

「本を通じて世界を知る」ことの楽しさを再認識すると同時に、皆さんにとっての「小さな光」について考える機会となることを期待して、『アン・オブ・グリーン・ゲイブルズ』を読まれることをぜひお勧めしたい。

※図書館所蔵図書のご請求記号と配架場所  
 910.268-Mu55(1階文学図書配架コーナー)  
 Sb-む-16-1(1階文庫本コーナー)



## 図書館サービスを活用していますか？Pt. III

### 総合情報図書館事務室

今回は、図書館サービスの活用方法について説明をしましたが、今回は校内専用ポータルサイト PANDA の「図書情報」(総合情報図書館ホームページ) から利用できる情報源を中心に目的別・テーマ別に紹介します。

#### ● 図書を探す

##### ・ 本校蔵書検索

「防大蔵書検索」をクリックし検索。

##### ・ CiNii Books

全国の大学図書館等が所蔵する本の情報を検索。

##### ・ WebCat Plus

江戸期前から現代までに出版された膨大な書物が対象、要旨・目次情報も掲載。

##### ・ NDL OPAC (国立国会図書館)

国内刊行出版物を網羅的に収集している。

##### ・ WorldCat

世界中の 10,000 以上の図書館の所蔵情報を提供。

##### ・ 近代デジタルライブラリー (国立国会図書館)

明治以降に刊行された図書・雑誌のうち、Web 上で閲覧可能な資料を公開。

##### ・ アジア歴史資料センター (国立公文書館)

国の機関が保管するアジア歴史資料 (オリジナル資料) を、Web 上で提供。

#### ● 雑誌を探す

##### ・ 本校蔵書検索 (和・洋雑誌)

製本された雑誌の検索。製本対象外雑誌は、「雑誌・紀要等配架状況表」を参照。

##### ・ CiNii Books (和・洋雑誌)

全国の大学図書館等が所蔵する雑誌の情報を検索。

##### ・ 科学技術論文誌・会議録データベース (国立国会図書館リサーチ・ナビ) (和雑誌)

国内の諸団体が発行する科学技術関係の学術論文誌等を検索。

##### ・ World Cat (洋雑誌)

世界中の図書館所蔵の洋雑誌検索と出版情報を提供。

##### ・ 丸善 Library Navigator (洋雑誌)

出版社一覧から ABC 順で検索。

##### ・ JST 資料所蔵目録 (JDreamIII) 科学技術振興機構 (JST) に所蔵がある雑誌を検索。

**●雑誌に掲載された論文を探す**

- **CiNii Articles**(和雑誌論文)  
機関リポジトリや CiNii PDF - オープンアクセス の論文は、閲覧・印刷可能。
- **雑誌記事索引**(和雑誌論文)  
国立国会図書館が収集・整理した国内刊行和文雑誌の和雑誌論文検索。
- **SciVerse ScienceDirect**(洋雑誌論文)  
科学・技術・医学・社会科学を対象とする論文検索。フルテキスト付き。
- **JDreamIII**(和雑誌論文・洋雑誌論文)  
工学・医学・薬学関係の文献情報。洋雑誌論文にも日本語の抄録がついている。
- **Engineering Village**(洋雑誌論文)  
1,000 万件以上の文献を収録し、世界で最も幅広く工学分野をカバーしている。
- **J-STAGE**(和雑誌論文)  
日本国内の学協会の 1,800 誌の学術雑誌を公開。オープンアクセスも多い。(一部有料)
- **WILEY Online**(洋雑誌論文)  
薬学、科学技術分野が中心のジャーナルオンラインデータベース。無料公開論文も存在。
- **IEEE Xplore**(洋雑誌論文)  
IEEE が提供する、学会のオンラインサイト。
- **PubMed**(洋雑誌論文)  
医学・生物学分野の雑誌記事索引。
- **AgriKnowledge**(洋雑誌論文)  
農林水産研究総合ポータルサイトで提供しているコンテンツや、外部の情報検索が可能。
- **Ingenta Connect**(洋雑誌論文)  
各出版社から電子ジャーナルを集めて提供。
- **LexisNexis**(洋雑誌論文)  
ビジネス情報、米国を中心とした判例・法令・論文などの情報を収録。
- **Westlaw**(洋雑誌論文)  
法律雑誌論文検索ができる。
- **雑誌『労働判例』**(和雑誌論文)  
産労総合研究所が発行する雑誌『労働判例』を PDF で閲覧可能
- **土木学会学術論文等公開ページ**(和雑誌論文)  
公開対象論文 30 万件が検索可能(3年を経たものを一般公開)
- **学術研究データベース・リポジトリ**(国立情報学研究所)(和雑誌論文)  
国内の学会、研究者、図書館等が作成している、様々な専門分野のデータベースを検索。
- **国文学論文目録データベース**(和雑誌論文)  
日本文学研究論文の総合目録データベース。(明治・大正・昭和・平成)
- **教育系サブジェクトリポジトリポータル**(東京学芸大学)(和雑誌論文)  
阪教大/兵教大/奈教大/愛教大/上教大/立教大/東学大の7つの教育系大学のサイト。

- ・ Ask ERIC (洋雑誌論文) 教育学関係の論文の検索が可能。(1966年～)
  - ・ Google Scholar (和雑誌論文・洋雑誌論文)  
学術情報に特化した検索エンジン、フルテキストも検索できる。
- 
- 博士論文を探す
  - ・ 博士論文書誌データベース (学術研究データベース・リポジトリ、国立情報学研究所提供)
- 
- テクニカルレポートを探す
  - ・ テクニカルレポート (国立国会図書館リサーチナビ)  
研究開発一般、国防関係、原子力を含むエネルギー関係、原子力関係、航空宇宙関係。
  - ・ NTIS (National Technical Information Service)  
NTIS が提供する無料の二次情報データベース。1964年以降の研究開発資料を検索。
- 
- 国際連合関係の資料を探す
  - ・ United Nation Documentation Service  
e-ライブラリーから国連文書のダウンロードが可能。
- 
- 事典・辞典を調べる
  - ・ ジャパンナレッジ  
百科事典、辞書以外にも、雑誌、ニュース、叢書なども一括で検索できる。
- 
- 新聞記事を探す
  - ・ 聞蔵II ビジュアル (朝日新聞データベース)  
朝日新聞(1879年～)、AERA(1988年5月～)、週刊朝日(2000年4月～)、知恵蔵等検索。
  - ・ LexisNexis (洋雑誌論文) 世界各国のニュースを収録。
  - ・ 日本経済新聞 (Free) 朝刊・夕刊1週間分
  - ・ 毎日新聞 (Free) 過去1ヶ月
  - ・ 産経新聞 (Free) 過去6ヶ月間
  - ・ 47NEWS (Free) 過去1年間 (52新聞社の2週間から1年分の情報をキーワードで検索)
  - ・ The Japan Times (Free) 1999～全文記事を見ることができる。
- 
- 統計情報を探す
  - ・ e-Stat 政府統計の総合窓口 (総務省統計局) (Free)  
各省庁をはじめ、国が管轄する統計情報を探すときの基本ツール。
  - ・ 総務省統計局 (Free) 「国勢調査」などがエクセルデータでダウンロードできる。
  - ・ 世界の統計 (総務省統計局) (Free) 世界各国の人口、経済、社会等の統計を、日本でまとめる。
- 
- 規格情報を探す
  - ・ JISC (Japanese Industrial Standards Committee) 日本工業標準調査会 (Free)

全文の閲覧可能。印刷は不可。(図書館では冊子体「JISハンドブック(全分野)を所蔵」)

- ・ **日本規格協会**(Free) J I S、I S O、I E C規格を統合検索可能。
- ・ **IHS Inc.**(Free) 120ヶ国の規格等を検索可能。

### ●特許情報を探す

- ・ **特許電子図書館**(Free)(工業所有権情報・研修館)  
特許実用新案、経過情報、商標、意匠、裁判別に多様な検索機能を持っている。
- ・ **ヨーロッパ特許庁**(Free) ヨーロッパ諸国はもちろん、アメリカなど全世界の特許が検索可能。

### ●科研費情報を探す

**科学研究費補助金採択課題・成果概要データベース**(N i i)(Free)

採択課題と研究成果の概要(研究実績報告、研究成果概要)を収録。(1965年～)

情報検索、文献検索にご利用ください。

### 編集後記

今号では、渡邊副校長、佐々木教官、彦谷教官から御寄稿を賜りました。心より御礼申し上げます。それぞれの内容は「リーダーシップと正義」、「中国の政治と外交」、「異文化理解と天職・使命感」と多岐にわたりますが、いずれも流動する現代世界への複眼的な視座と柔軟な思考を養ううえで重要であり、本校学生の教育に資するものと思われま

す。なお、今号で紹介された書籍は、近日配架予定の一冊を除き、総合情報図書館に所蔵されています。所蔵図書のリクエスト記号と配架場所は、各記事の末尾に記載されていますので、ぜひ一度手に取ってご覧になってください。また、図書館ホームページに掲載の「防大生に読んでほしい一冊」も是非ご一読をお勧めします。

編集委員長 澤田眞治

NADAL Bulletin Vol.29, No.1

防衛大学校図書館だより 2014. 9. 22

### 発行及び発行人

〒239-8686

神奈川県横須賀市走水 1-10-20

防衛大学校総合情報図書館 Tel. 046-841-3810

館長 武田 康裕

### 編集委員

澤田 眞治(安全保障・危機管理教育センター)

入江 史郎(体育学教育室)

多田 毅(建設環境工学科)

### 編集庶務

寒河江 孝(総合情報図書館事務室)

櫻井 貴夫(総合情報図書館事務室)

### 連絡先

〒239-8686

神奈川県横須賀市走水 1-10-20

防衛大学校 総合情報図書館事務室

「図書館だより」事務局

Tel. 046-841-3810 FAX. 046-843-3818